

藤沢市で企業とNPOを繋ぐリエゾンシニアの活躍事例

■ 本田さんと手塚さんとの出会いは？

前号で紹介したのは、60歳定年を機に、長年勤めた花王株式会社から、自ら手をあげて日本NPOセンターへ在籍出向し、「NPOと企業の懸け橋になりたい」と意気込む本田恭助さん。

そんな本田さんが、出向直後に出会って企画書を見事に否定されたのが、認定NPO法人藤沢市民活動推進機構の理事長を務める手塚明美さんでした。

「本田さんは、びしっと決めたスーツ姿で、場違いな感じが溢れていました。大掛かりな企画内容も、企業論理が滲み出ており、特に現場感がなく、私たちNPOのことをご存じない方だと、当時は判断したのです」と4年前の出会いを振り返って手塚さんは優しい笑顔で話す。

■ 藤沢市で20年以上、企業とNPOを繋ぐ手塚さん

を繋ぐ手塚さん

そんな手塚さんも、社会人前半は、建築設計事務所の一員として役所や現場を飛び回るビジネスパーソンだった。1998年の神奈川県でのボランティア活動をきっかけに、「NPO支援による街の活性化」を目指して、ボランティア活動メンバーが中心になって、地域活動を開始した。その後、2001年に、当時のNPOの草分け的な存在として、現在の機構を立ち上げた経

緯の持ち主である。

時代の変化と共に、CSRや、SDGsに関する社会からの注目度も上がるにつれ、手塚さんは、NPOの中間支援組織として、地元藤沢市の数多くのNPOの経営支援活動に携わる傍ら、企業からの社会貢献活動への参画の相談が数多く舞い込むようになり、充実した毎日を送るようになった。

手塚さんには、「NPOと企業がもっと協働するようになる」と、社会はよりハッピーになる」との思いがある。「自分は主役ではない。NPOと企業を繋ぐ役割に徹して、繋いだ後は地域活性化に向けたそれぞれの行動を見守っていききたい」と自らの20年の歩みを振り返りながら、これからの

展望を描く。

■ 手塚さんも本田さんも思いは同じ

4年前は企業戦士そのものだった本田さんも、今では動きやすい普段着で業務にあたる。手塚さんとも「よりよい社会」のあり方を、満面の笑みを浮かべながら語り合う仲間に。

手塚さんも、「本田さんの笑顔は、ご自身の幸せ度を表していて、きっとNPOも企業も動かす原動力になっているはずですよ」と頼もしい存在に期待を寄せていた。



手塚明美さん(左)、本田恭助さん(右)

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所理事
1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後からの自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見・ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。